

CO・OP牛肉コロッケの原料牛肉偽装について（第10報・総括報告）

CO・OP牛肉コロッケの原料牛肉偽装の問題で、皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけしましたことを、改めて深くお詫びいたします。今回の問題に関する緊急調査や今後の品質管理強化対策についてお知らせし、総括的な報告とさせていただきます。

1. 今回の経過について

- ホームページでご案内している内容（第1報～9報）をご参照ください。

2. 商品回収と返金について

- 組合員の皆様へのご返金等の対応につきましては、ご加入生協の個別対応とさせていただきます。
- 日本生協連は、CO・OP牛肉コロッケの発売以来の出荷実績にもとづき、50会員生協に対して相応額を補償いたしました。

3. 今回の問題点について

- コープ商品の開発に際しては、原料・試作品検査や産地・工場点検等を実施し、安全性や品質に関する基準を満たしていることを確認することとしています。検査項目は、原料の種類や産地に応じて設定します。工場点検は、定められた手法、項目にもとづき、訓練された担当者が実施しています。
- 今回の問題点は、「北海道産の牛肉・じゃがいも使用」と限定していた商品に「北海道産」の「牛肉」が仕様書通りに使用されていることが検証できていなかったことにあります。
- 日本生協連による工場点検は、製造工場であった(株)北海道加ト吉に対してCO・OP牛肉コロッケについてだけでも4回実施し、製造環境や工程管理の改善要請をしておりましたが、牛ひき肉原料仕入先であったミートホープ(株)への立ち入り点検は実施していませんでした。原料牛ひき肉仕入先であったミートホープ(株)への(株)北海道加ト吉による随時立ち入り確認でも、原料偽装を見破ることはできませんでした。
- CO・OP牛肉コロッケは、残留農薬、動物用医薬品、食品添加物や微生物、かび毒、重金属など、安全性を確認するための各種検査を実施していました。原料牛ひき肉については(株)北海道加ト吉では仕入回ごとに産地証明書を受領していましたが、牛肉であるかどうかの畜種判別検査は(株)北海道加ト吉、日本生協連ともに実施していませんでした。

4. 今回問題を受けての緊急調査

- ひき肉等を使用したコープ商品237品目を対象に、取引先の原料および原料仕入先管理状況アンケート調査、工場・原料仕入先点検、遺伝子検査を組み合わせた緊急調査を実施した結果、畜種に関して仕様書通りであることを確認いたしました。※「ひき肉等」とは、ひき肉のほか、結着肉、ダイスカットを含みます。
- 使用する原料のうち産地、品種、等級等を指定した商品約3,500品目のうち、原料優劣差があり偽装される可能性がある商品2,384品目の遵守状況について緊急調査を実施し、工場実地点検や詳細内容を点検しました。また、遺伝子検査によ

る品種判別が可能な 47 検体で実施し、工場点検と組み合わせて指定内容の遵守状況について点検しています。以上の調査で、一部で運用改善を要する課題があるものの、原料偽装はないものと確認しています。

5. 今後の対策について

- 最優先の課題として原料管理に関するガイドラインを新設し、運用を開始しました。このガイドラインでは、原料の産地、品種、等級等を指定したり商品包材に強調表示（例：「CO・OP国産カットほうれん草」など）したりしているものについて、原料入荷段階や原料仕入先の管理状況を把握します。さらに、その内容について商品発売時の製造点検や年次の取引先との相互仕様書点検で確認いたします。
- また、7月から米・大豆・小麦・畜肉などの品種鑑別が可能な原材料については、品種鑑別検査（遺伝子検査）を実施して、取引先への牽制機能を強化し、原料管理の検証レベルを引き上げています。現在は技術的に確立されていない品種鑑別、産地鑑別の手法についても調査研究も進めます。
- 現在、年次で取引先との工場相互監査や仕様書相互点検を実施していますが、そのうち仕様書相互点検については、原料配合表や実際の投入記録等、実際の製造現場で使用されている帳票や出荷判定検査結果等とつけあわせることで精度を向上させる計画です。
- 原料仕入先を含めた取引先情報を幅広く収集して、企業倫理・体質に対する評価を行うとともに、外部から情報提供された場合の対応基準を定めます。また、日常的な品質管理活動とは別に、製造委託工場でコープ商品が仕様書通りに製造されているかどうかを点検する専任チームを編成して、取引先への牽制機能を強めることとします。
- 今回の問題をふまえて上記の品質管理を強化させる一方で、行政や食品の製造、流通段階に関わるすべての関係者が責任を全うすることで食品偽装等の問題を再発させないための社会システムを整備することも必要です。日本生協連はその実現に向けて、協力してまいります。

6. 信頼回復にむけて

- 今回の問題は、コープ商品の品質管理マネジメントシステムに沿って製造されてきていたのにもかかわらず発生しました。上記の品質管理強化対策を確実に推進することで、コープ商品の基本的な価値である「安全性の確保」、「品質の確かさ」、「低価格の実現」を確保し、再発防止に努力してまいります。
- 今回の件に関して、日本生協連では関係役員に対して減俸処分を行いました。
- 最後に、改めて深くお詫びするとともに、コープ商品を引き続きご愛用くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。